

■ 目的

- 気候変動による果樹の品質や収量への影響は、既に顕在化している。果樹は同じ木で30年以上栽培を継続することから、意思決定には将来情報が必要となるが、現状では果樹生産適地に関する将来予測情報が不足している。
- そこで、気候変動がもたらす主要果樹の生産適地に及ぼす将来影響を、最新の影響評価モデルや気候シナリオを活用して予測する。

■ 事業計画

年度	主な調査項目
H30年度	<ul style="list-style-type: none">• 気候変動影響予測を行うための基礎データの収集整備• 気候変動の影響を受けやすい主要果樹のうち、ウンシュウミカン、タンカン、リンゴについて、将来生産が可能な確率の評価、栽培適地マップの作成• モデルの高度化を目指し、影響予測の空間的な精緻化及び、極温推定の手法の検討
R元年度	<ul style="list-style-type: none">• 上記調査に関する追加調査• 調査のとりまとめ



リンゴの日焼け果(上図)、優良着色系の導入(下図)
出典)農林水産省 平成29年 地球温暖化影響調査レポート

■ 実施体制

